皮 膚 科 学

1　構 成 員

	平成20年3月31日現在
教授	1人
准教授	1人
講師（うち病院籍）	2人　（　2人）
助教（うち病院籍）	3人　（　0人）
助手（うち病院籍）	0人　（　0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	2人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人　（　0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	1人
その他（技術補佐員等）	1人
合　　計	11人

2　教員の異動状況

瀧川　雅浩（教授）　（H2.10.16～現職）
橋爪　秀夫（准教授）（H15. 2. 1～H19. 3. 31助教授　H19. 4. 1～現職）
八木　宏明（講師）　（H13. 1. 1～現職）
伊藤　泰介（講師）　（H18. 4. 1～H19. 3. 31助手　H19. 4. 1～現職）
瀬尾　尚宏（助教）　（H8. 7. 1～H19. 3. 31助手　H19. 4. 1～現職）
堀部　尚弘（助教）　（H16. 2. 1～H19. 3. 31助手　H19. 4. 1～現職）
吉成　　康　　（H16. 4. 1～H19. 3. 31助手　H19. 4. 1～H20. 1. 31助教）
伊藤なつ穂　　（H16. 4. 1～H19. 3. 31助手　H19. 4. 1～H19. 10. 31助教）
川村　哲也（助教）　（H18. 9. 1～H19. 12. 31医員　H20. 1. 1～現職）

3　研究業績

数字は小数2位まで。

	平成19年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	6編　（　1編）
そのインパクトファクターの合計	7.69
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	14編　（ 13編）

そのインパクトファクターの合計	2.63	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	2編	（ 2編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	6編	（ 4編）
そのインパクトファクターの合計	3.14	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Hashizume H., Ito T., Yagi H., Takigawa M., Kageyama H, Furukawa F, Hata M, Shirahama S, Tanaka M, Higashishiba T, Machida H, Tsushima T, Matsushita K. : Efficacy and safety of preprandial versus postprandial administration of low-dose cyclosporin microemulsion（Neoral）in patients with psoriasis vulgaris. J. Dermatol. 34(7): 430-4, 2007.
2. Ito T., Ito N., Saatoff M., Hashizume H., Fukamizu H., Nickoloff B. J., Takigawa M., Paus R.: Maintenance of hair follicle immune priviledge is linked to prevention of NK Cell attack. J. Invest. Dermatol. 128; 1196-1206, 2008.
3. Ito T., Meyer KC, Ito N., Paus R. Immune privilege and the skin. Curr Dir Autoimmun. 10: 27-52; 2008.

インパクトファクターの小計　［5.14］

C．筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. 鈴木陽子，水島八重子，杉浦丹，橋爪秀夫，瀧川雅浩: 爪白癬に対するイトラコナゾールパルス療法の臨床効果および治療コンプライアンスの評価. 200mg×6サイクル群と400mg×3サイクル群の比較. 新薬と臨床 56(9); 1598-1606, 2007.
2. Tokura Y, Sugita K, Kabashima K, Ito T, Yagi H.: Alopecia universalis associated with impaired interleukin-4 production and low serum IgE level. J Am Acad Dermatol 57(2 Suppl) :S22-5, 2007.
3. 宮地良樹，瀧川雅浩：抗ヒスタミン薬における効果と眠気の関係について　インターネットによる患者調査．Progress in Medicine 27(5) ; 1233-1241, 2007.

インパクトファクターの小計　［2.55］

(3) 総　説

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Seo N., Takigawa M.: The current status and future direction of percutaneous peptide immunization against melanoma. J. Dermatol. Sci., 48; 77-85, 2007.
2. 橋爪秀夫：アトピー性皮膚炎と経皮ワクチン．治療学 41(10); 1093-1094, 2007.
3. 橋爪秀夫：アトピー性皮膚炎におけるCD25+CD4+調節T細胞の関与　アトピー性皮膚炎の免疫学的機序と調節T細胞．「Q&Aでわかるアレルギー疾患」3(2); 200-203, 2007.
4. 橋爪秀夫： アトピー性皮膚炎におけるCD25+CD4+調節T細胞の関与(3) − 治療への展望 −．「Q&Aでわかるアレルギー疾患」3(14); 427-431, 2007.
5. 橋爪秀夫： 乾癬における短期・低用量ネオーラルR治療. 臨皮，61(5)； 83-86, 2007.

6. 橋爪秀夫： アトピー性皮膚炎におけるCD25+CD4+調節T細胞の関与(2)－疾患における意義について「Q&Aでわかるアレルギー疾患」3(13); 310-313, 2007.
7. 八木宏明：知っておきたい画像所見 皮膚疾患 皮膚悪性リンパ腫．Junior 465; 1-6, 2007.
8. 八木宏明： 皮膚悪性リンパ腫の病期分類と治療　菌状息肉症とセザリー症候群の診療ガイドライン． 医薬の門 47(2); 208-212, 2007.
9. 伊藤泰介： 病因から考える脱毛症の治療．日皮会誌, 117(13); 2297-2299, 2007.
10. 伊藤泰介： 円形脱毛症の治療最前線．医学のあゆみ, 224(4); 265-268, 2007.
11. 伊藤泰介：円形脱毛症の発症機序　医学の歩み 224(4) ; 259-263, 2007.

インパクトファクターの小計　［2.63］

B．筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 深水秀一，八木宏明： リンパ造血系腫瘍：菌状息肉症，Sezary症候群，成人T細胞白血病．形成外科 50(10); 1165-1175, 2007.

インパクトファクターの小計　［0.00］

C．筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. 北島康雄，瀧川雅浩，伊藤雅章，伊藤　隆：皮膚科専門医制度の問題と今後の方向性．日皮会誌 117（13）; 2229-2235, 2007.
2. 川島 眞，江藤隆史，江畑俊哉，大谷道輝，片山一朗，幸野健，瀧川雅浩，田邉昇，中川秀己，原田昭太郎，古川福実，森川昭廣，谷内一彦: アレルギー性皮膚疾患におけるエビデンスに基づいた抗ヒスタミン薬の選択．臨床皮膚科62(1); 8-15, 2008.

インパクトファクターの小計　［0.00］

(4) 著　　書

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 伊藤泰介：病因別脱毛症治療法　What's new in 皮膚科学 2008-2009, 2007.
2. 伊藤なつ穂，伊藤泰介：【時空をマーチする血管炎】 膠原病・類縁疾患にみられる血管障害　壊死性血管炎と小葉性脂肪織炎を伴った皮膚筋炎（解説/症例報告/特集）Visual Dermatology 6 巻 5 号 ; 502-503, 2007.

(5) 症例報告

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Yagi H., Ito T., Ito N., Horibe T., Yoshinari Y., Takigawa M., Hashizume H.: Palpable archiform migratory erythema preceded by B-cell pseudolymphoma in a Japanese man. Acta. Derm. Venereol. 88; 171-172, 2008
2. 伊藤なつ穂，伊藤泰介，八木宏明，橋爪秀夫，浦野聖子： 光線過敏症を伴ったHIV感染症の１例．臨皮 61(13); 1064-1067, 2007.

インパクトファクターの小計　［1.84］

C．筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. Yoshizawa N., Yagi H., Horibe T., Takigawa M., Sugiura M.: Primary cutaneous aggressive epidermotropic CD8+T-cell lymphoma with a CD15+CD30- phenotype. Eur. J. Dermatol., 17 (5); 441-442, 2007.
2. 藤山俊晴，東芝輝臣，八木宏明，橋爪秀夫: 多彩な神経症状を伴った節外性NK/T細胞リンパ腫の１例．臨皮 62(3); 183-186, 2008
3. 船井尚子，古川富紀子，芳賀信彦，加藤光剛，浜崎豊，佐野勉，橋爪秀夫，瀧川雅浩: 若年性ヒアリン線維腫症の１例．皮膚臨床 49(5); 617-620, 2007.
4. 太田まゆみ，堀部尚弘，大島昭博，八木宏明，橋爪秀夫，瀧川雅浩： 右腋窩に限局した菌状息肉症．Skin Cancer 22(1); 68-71, 2007.

インパクトファクターの小計　［1.30］

4　特許等の出願状況

	平成19年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5　医学研究費取得状況

	平成19年度
(1) 文部科学省科学研究費	5件 （ 1,610万円）
(2) 厚生科学研究費	0件 （ 0万円）
(3) 他政府機関による研究助成	0件 （ 0万円）
(4) 財団助成金	0件 （ 0万円）
(5) 受託研究または共同研究	6件 （4,894,532円）
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	17件 （ 1,305万円）

(1) 文部科学省科学研究費

1. 瀧川雅浩（代表者）基盤研究（A） 経皮ペプチド免疫療法によるヒトの悪性黒色腫治療　1,040万円（継続）
2. 八木宏明（代表者）基盤研究（C）(2) 悪性黒色腫患者の経皮免疫療法で誘導される細胞障害性T細胞のケモカインと走化の調節180万（新規）
3. 瀬尾尚宏（代表者）基盤研究（C）(2) Gタンパク質共役型受容体制御による新しいメラノーマ免疫治療法の開発に関する研究　180万円（新規）
4. 伊藤泰介（代表）若手研究（B）成長期毛包における免疫特殊環境と円形脱毛症の病態の解明　80万円（継続）
5. 伊藤なつ穂（代表）若手研究（B）円形脱毛症における調節性T細胞の関与と局所免疫療法との関連について　130万円（継続）

(5) 受託研究または共同研究

受託研究223　　1,600円

受託研究325　　6万円

受託研究408　　2.2万円

受託研究421　　72万円

共同研究706　　2,272,750円

共同研究712　　1,818,182円

7　学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	1件	0件
(2) シンポジウム発表数	1件	4件
(3) 学会座長回数	0件	7件
(4) 学会開催回数	0件	3件
(5) 学会役員等回数	1件	7件
(6) 一般演題発表数	2件	

(1) 国際学会等開催・参加

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

瀧川雅浩：Stress and Atopic Dermatitis How does anxiety influence atopic symptomatology? 第7回韓国アトピー性皮膚炎シンポジウム　招待講演　ソウル（韓国）2007. 11. 9-11. 11

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

Yagi H., Symposium Update on cutaneous lymphomas: common lymphomas and virus-associated lymphomas Cutaneous adult T cell leukemia 21st World Congress of Dermatology（2007/10 Buenos Aires, Argentina）

4) 国際学会・会議等での座長

Hashizume H.: 21st World Congress of Dermatology（2007/10 Buenos Aires, Argentina）

5) 一般発表

ポスター発表

Hideo Hashizume: HIGH LEVELS OF INTERLEUKIN-2 AND INTERLEUKIN-4 DRAMATICALLY PROMOTE EMIGRATION AND PROLIFERATION OF SKIN LESIONS, POSSIBLY BY A TRANSIENT ABROGATION OF CD4+CD25+FOXP3+ REGULATORY T CELL FUNCTION. Poster presentation. 21st World Congress of Dermatology, 2007/9/30-2007/10/5, Buenos Aires（Argentina）.

伊藤泰介: The infiltration of CXCR3^{+} T cells by up-regulation of IP-10 in acute phase of

alopecia areata lesion　Fifth International Congress of Hair Research June 13-16, 2007 Vancouver（Canada）

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

第88回日本皮膚科学会静岡地方会　2007. 6　静岡市

第89回日本皮膚科学会静岡地方会　2007. 10　三島市

第90回日本皮膚科学会静岡地方会　2008. 2　浜松市

3) シンポジウム発表

八木宏明：日本の皮膚リンパ腫とメラノーマ　特異性と新たな治療戦略 皮膚リンパ腫，メラノーマのExperimental therapy第45回日本癌治療学会総会　2007/10/24（京都）

教育講演

瀧川雅浩：日本の専門医制における皮膚科専門医　第106回日本皮膚科学会総会　2007. 4. 20-4. 22　横浜市

橋爪秀夫：薬剤アレルギーの発症メカニズム　第57回日本アレルギー学会秋季学術大会　2007. 11. 1 横浜市

八木宏明：皮膚T細胞リンパ腫の多彩な臨床像　第106回日本皮膚科学会総会　2007. 4. 20-4. 22　横浜市

4) 座長をした学会名

瀧川雅浩：第106回日本皮膚科学会総会　2007. 4. 20-4. 22　横浜市

瀧川雅浩：第22回日本乾癬学会学術大会　2007. 9　志摩市

瀧川雅浩：第71回日本皮膚科学会東京支部総会・学術大会　2008. 2　東京

橋爪秀夫：第37回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会，2007. 12. 14-16，名古屋

八木宏明：第106回日本皮膚科学会総会　2007. 4. 20-4. 22　横浜市

八木宏明：第71回日本皮膚科学会東部支部学術大会　2007. 9. 22-23　札幌市

八木宏明：第23回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会　2007. 5. 11-12　新潟市

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

瀧川雅浩　世界皮膚リンフォーマ学会　理事

瀧川雅浩　日本皮膚科学会　代議員

瀧川雅浩　日本皮膚悪性腫瘍学会　理事

瀧川雅浩　日本皮膚アレルギー学会　評議員

瀧川雅浩　日本乾癬学会　理事
橋爪秀夫　日本皮膚科学会　代議員
橋爪秀夫　日本皮膚アレルギー学会　評議員
橋爪秀夫　日本研究皮膚科学会　評議員
八木宏明　日本研究皮膚科学会　評議員
八木宏明　日本皮膚悪性腫瘍学会　評議員
伊藤泰介　日本研究皮膚科学会　評議員

8　学術雑誌の編集への貢献

	国　内	外　国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	2件	3件

(1) 国内の英文雑誌の編集
瀧川雅浩： Journal of Dermatological Science, Editorial Board, IF 2.63
瀧川雅浩： Journal of Dermatology, Editorial Board, IF 0.61

(2) 外国の学術雑誌の編集
瀧川雅浩: Acta Dermato-Venereologica (Stockholm), Editorial Board, IF 1.83
瀧川雅浩: Experimental Dermatology (UK), Editorial Board, IF 2.44
橋爪秀夫: The Open Dermatology Journal (UK), Editorial Board, IF 0

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー
橋爪秀夫: Journal of Dermatology (Japan) 2回
橋爪秀夫: The Open Dermatology Journal (UK) 2回
橋爪秀夫: Anesthesiology (USA) 1回
橋爪秀夫: Archives of Dermatological Research (USA) 1回
橋爪秀夫: Acta Dermato-Venereologica (Sweden) 1回
八木宏明: Journal of Dermatology (Japan)　3回
伊藤泰介: European Journal of Dermatology (France)　1回
伊藤泰介: the International Journal of Dermatology 3回
伊藤泰介: Br J Dermatol (UK) 1回
伊藤泰介: Clinical and Experimental Dermatology (UK)　1回
伊藤泰介: Journal of Dermatological Science (Japan) 1回

9　共同研究の実施状況

	平成19年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10　産学共同研究

	平成19年度
産学共同研究	2件

1. アトピー性皮膚炎患者におけるアスタキサンチン内服の効果 ヤマハ発動機㈱ 平成20年 1 月-3 月
2. 各種プロスタグランジンE2受容体作動物質の抗腫瘍免疫増強効果の検討　小野薬品工業株式会社　平成20年 9 月30日

12　研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 形質細胞様樹状細胞による誘導型CD4+CD25+Foxp3+制御性T細胞の機能的評価

橋爪秀夫

我々は，健常人および乾癬患者などと比較して，アトピー性皮膚炎患者において形質細胞様樹状細胞が循環血液中に多いことをこれまで示している。この量的不均衡を生じたアトピー性皮膚炎患者の本細胞が，機能的に異なるかどうかを検討した。形質細胞様樹状細胞は，制御性樹状細胞としても知られており，CD4+CD25+Foxp3+制御性T細胞を誘導する機能をもつ。健常人を含め，接触皮膚炎，乾癬およびアトピー性皮膚炎患者の末梢血から形質細胞様樹状細胞を調整し，アロのナイーブT細胞と共培養して，誘導型CD4+CD25+Foxp3+制御性T細胞を得た。疾患にかかわらず，この制御性T細胞は，CD3刺激によるリンパ球の増殖を強力に抑制した。一方，アトピー性皮膚炎の樹状細胞によって得られた誘導型CD4+CD25+Foxp3+制御性T細胞は，IL-5, TNF-αを強く発現していた点で，他疾患および健常者と異なっていた。また，このフェノタイプの細胞は，アトピー性皮膚炎の皮膚病変内にも認められた。アトピー性皮膚炎が遷延する理由に，誘導型CD4+CD25+Foxp3+制御性T細胞の機能不全が関わっているかもしれない。

2. 円形脱毛症におけるNK細胞の関わり

伊藤泰介

Immune privilege（IP）といわれる免疫環境は前眼房、精巣、中枢神経系、胎盤、そして成長期毛包に存在する。これらの組織は自己抗原を自己免疫反応から回避する環境になっている。成長期毛包のIPは MHC class I やTAP2の低発現、MHC class II発現の低下によるランゲルハンス細胞の抗原提示能不全、免疫抑制性物質の発現（e.g. α-MSH, TGF-β）などによって特徴づけられている。一方、免疫学的にはMHC class I発現が低いことによってNK細胞の攻撃を受けやすくなるはずだが、実際には成長期毛包周囲にはNK細胞の浸潤はほとんどみられない。NK細胞上にはNK細胞に対して抑制的なシグナルを送るKIR, NKG2Aといった抑制性受容体が発現しており、それらが MHC class I 分子を認識すると抑制シグナルがNK細胞に入る。 一方、MHC class I発現を欠いていると抑制シグナルが入らない。またNK細胞上の NKG2D は標的細胞上のMHC class I chain-related protein A（MICA）を認識して細胞障害性の作用を来す活性化受容体である。円形脱毛症はIPの破綻が病因の一つであると想定され、NK細胞の関わりについて検討してきたが、成長期毛包はMICA発現の欠如やMIF発現によってNK細胞からの攻撃を回避していることがわかった。一方、円形脱毛症病変毛包ではMICAが強発現し、またNK細胞上のKIR発現の低下やNKG2D発現の

増強によってMHC class I発現が上昇しているにもかかわらずNK細胞の攻撃も受けやすくなっていることが明らかになった。円形脱毛症ではT細胞のみならずNK細胞も病態の形成に大きく関与していることが予想される。

15　新聞，雑誌等による報道

1. 橋爪秀夫：静岡新聞「診察室」　平成19年 9 月20日
2. 橋爪秀夫：アトピー性皮膚炎のメンタルケア．Clinical Derma 9(4); 9-10, 2007.
3. 八木宏明：静岡新聞「診察室」　平成19年10月18日
4. 伊藤泰介：NHK　ＮＨＫ静岡放送局 たっぷり静岡　男性型脱毛症治療最前線　2007. 2. 21
5. 伊藤泰介：静岡新聞「診察室」平成19年10月
6. 伊藤泰介：静岡新聞「診察室」平成20年 3 月